

## 滋賀県立大学の学生との公共施設等マネジメントを考えるワークショップ

### 開催概要

<開催趣旨>今後の公共施設等のあり方は、利用や負担の面で、将来世代にも大きな影響が及ぶことから、若い方のご意見をお聴きし、今後の公共施設等マネジメントの方針の検討に活かすことを目的に開催。

<開催日時>平成27年12月16日(水) 14:50~17:00

<開催場所>滋賀県立大学環境科学部

<全体進行>平山奈央子助教

<参加者>滋賀県立大学環境科学科：39名 県：2名(総務部管理監、経営企画室員)

<開催概要>

14:50~ 趣旨説明

15:00~ 公共施設等マネジメントについて県からの説明・質疑

15:30~ 6グループ(建築物・インフラ施設・公営企業施設それぞれ2グループずつ)に分かれてのワークショップ

ワークショップは、

- ① 各施設の機能を出し合う
- ② その中で重要と思われるものを、利用者の目線と管理者の目線それぞれから抽出
- ③ その機能を果たすために、収入を増やす、費用を削減する、サービスを向上させるといった対策を考えるという流れで意見を出し合い、見える化して共有  
最後に、各グループから発表



17:00 終了

<主な意見・アイデア>

(建築物(例示した施設: 県立県民交流センター)について)

- 近隣の他の施設(県立・民間を問わず)と連携して利用者増を図る工夫が必要
- 充実している周辺施設をアピールして利用者を増やせないか
- 使用頻度の低い部屋や場所を用途変更できるようにして稼働率を上げる
- (会議室の空き時間等を)学校として使えないか
- 窓ガラスを増やして、採光すれば空調にかかる光熱水費が安くなるのではないか
- 駐車場をドライブスルーにしてみようか
- 固定客、貸切り期間を増やして固定収入確保
- 記者会見スペースとしての利用

(インフラ施設 (例示した施設: 道路施設 (橋梁)) について)

- 道路や橋を使う人に負担してもらうため、橋税を新設したり、ガソリン税など充実させてはどうか
- ETCを拡充し、一般道でも料金を徴収できるようにすればどうか
- 除草や清掃など維持管理をボランティアにお願いすればどうか
- 橋の用途を決めて、用途に応じた構造や外見にし、コストを縮減 (トラック専用の橋と歩行者専用の橋では損傷度合いが変わるため。また橋の外見は質素でいいが、観光地の橋のみ外見をよくするなど)
- 橋を作る時に、何年間で壊す (壊れる) と決めて、壊れる前に壊してしまえば良いのではないか (老朽化による事故を防げる)
- 橋を民間に売って、私有化して、使う人に管理してもらえば良いのではないか

(公営企業施設 (例示した施設: 流域下水道施設) について)

- 地域の実情に応じて、大きな規模の施設、小さい規模の施設を作り分け、維持管理を効率化する必要があるのではないか
- 都市部はこまめに修理、山間部は小規模な処理施設で対応する
- 汚水を運ぶための施設 (管渠) にもお金がかかるので、集約することがメリットとは限らないのではないか
- 発生する熱を利用した発電などにより、動力費の削減ができるのではないか
- 1家に1台浄化装置を設置してはどうか
- 技術を上げて、その分料金を上げる
- 特典を付けて、処理施設に来てもらう人を増やす
- 人が多いうちに (減る前に) 老朽化対策を行う

(ワークショップの結果)

